



## やっぱり好きです！ 機器分析と水

産総研の阿部陽香さんよりバトンを引き継ぎました。現在別の学会で大変お世話になっていて足を向けて寝られない状態であるので断る理由も見つからず、お引き受けした次第です。ただ、お引き受けして、バトンを渡す次の方について、できれば若い方のほうが良い云々の文章がついておりましたので、会員歴30年の私で良かったのかと今更のように少し後悔しつつ、書き始めております(2011年9月下旬)。

分析化学を学び始めたばかりの学生の頃(つまり会員になりたての頃)、身の回りの物質が、出来事がすべて化学でわかるような錯覚にとらわれておりました。水も空気も石も土も木も花も分析すれば成分と組成がわかって、分析値どおりに混ぜ合わせれば、元どおりの物質になる。今そうならないのは、分析の感度が不足していて、まだ分析できていない物質があるから。そう信じて機器分析にはまっていきました。新しい機器が発表される度に、感度が著しく向上して、測定させていただくのがわくわくどきどきでした。卒業研究で配属された研究室は、東大を退官されて千葉大にいらしたばかりの藤原鎮男先生の研究室で、当然のことながらそんなに新しく、高感度な装置が研究室にたくさんあるはずありません。(実は古くて感度の普通の装置もほとんどありませんでした。)藤原先生が、いち早く新規機種を導入した企業の方(もちろん分析化学会の会員)にお願いして、測定させていただいていました。就職して分析機器メーカーでアプリケーションの仕事をするようになってからも、どんどん感度のいい、新機種が開発され、今までわからなかったことがわかるようになっていく、わくわくどきどきの日々は続きました。時代が平成に変わったときから今の大学で仕事をするようになりましたが、できたばかりのキャンパスはたくさんの新しい装置がどんどん入ってきて測定するわくわくどきどきは、休むときを知らない状態でした。

もう一つ以前よりはまっているものに、“水”があります。子供の頃からずっと気になっていた対象で、化学を志すきっかけでもありました。「21世紀は水の時代」といわれて、環境問題もエネルギー問題も水が鍵を握る！そう信じて研究対象としても、ずっと水とかかわってきました。しかし“水”はわたしたちに夢ばかりをみさせてくれたわけではありません。津波、豪雨と今年“水”の別の面を見せつけられた年でもありました。いい気になって自然をコントロールして、利用しようとしてきた人間に目を覚ませ！と神様の怒りの爆発のよう

に感じるこの頃です。10年ほど前に情報科学を専門とする先生(男性でその頃の本学教授です)に女性技術者を対象とした講演会で「世界の女性技術者・科学者の歩み」と題する講演をしていただいたことがあります。その中の雑談で、技術史を調べているとある段階まで技術が熟してくると、それをご破算にするような大きな災害か戦争が起こってきたようだ、と言われたのを改めて思い出しております。

長かった2011年も残りを数えるほうが楽な時期となりましたが、震災一色の春以降で分析化学会創立60周年の記念式典が年会会場で無事行われ、記念事業としての出版等がなされたことは、この秋からの明るいスタートへのきっかけといえるのではないのでしょうか。60年はまさに還暦、一回りしてXY平面では同じ位置まで戻ってもZ軸上の位置は重ならない螺旋を描いています。私は螺旋の後半の半分を会員として過ごしてきたこととなります。身の回りにある水も空気も木も花もいくら分析機器の感度が向上しても分析値どおりに混ぜ合わせて元に戻せないことは何となくわかってきました。そしてもちろん大好きな水もときには怖い面を見せることも。あと半周はとても無理ですが、あと三分の一巻きか四分の一巻きは会員として分析化学会の螺旋階段を上っていったらと考えています。毎日通うキャンパスは一昨年に20周年を迎えました。新しかった分析機器は世代交代の時期を迎え、ICPもX線回折もNMRもGC-MSも熱分析装置もここ数年で新しくなりました。測定するわくわくどきどきも最近復活しています。ただ、残念なことに20年前ほど測定時間がとれません。今年は自然と向き合って、研究対象との接し方、研究の進め方を考え直す機会をいただいたように思います。上る階段の高さはこれまでの30年と同じである必要はないのですね。好きなこと、はまっていることばかり書いてきましたが、最近になって、私にとって「断ること」はもしかすると苦手なことなのかもしれないと思うようになってきました。(この部分を読まれた方が私の仕事を探されないことを祈りながら。)また学生と接することもだんだん好きになってきています。私にとっての螺旋階段、これからは少し半径が大きくなるといいなと思うようになったこの頃です。次は正真正銘の若手研究者、福島沖の海域調査等でお忙しい、(財)海洋生物環境研究所の及川真司さんをお願いしました。

〔神奈川大学 西本右子〕